

巻頭言

創立100周年を1年後にひかえて

理事 (林業・木材産業研究担当) 池田 俊彌

森林総合研究所は明治38年(1905年)11月1日の農商務省山林局林業試験所の発足をもって創立とし、来年の平成17年(2005年)に100周年を迎えます。現在、記念事業の様々な企画や準備が始まっていますが、2005年は独立行政法人化の第1期を実質的に評価し、同時に第2期の計画を定めていく時期としても非常に重要な年に当たります。

本年(2004年)は独立行政法人としての3年間の活動を見直し、第2期中期計画策定に向けた改革を準備しなければなりません。一方では100周年をひかえて、日頃ともすれば短期的・可及的・効率的にならざるを得ない忙しい思考から脱却してみる絶好の機会と捉えることができます。記念事業としては、記念誌等の出版、記念シンポジウムの開催等様々なことが考えられますが、森林総研の“歩んできた歴史に学び、夢を語り、希望に満ちた未来を目指す”好機にしたいものです。

2千年前中国の三国時代、一般には最高の軍師として有名な諸葛孔明は、荊州で晴耕雨読の生活をしていた学問の師であり、次のような書を残しています。

「誡子書」 : 諸葛孔明

優れた人は静かに身を修め徳を養う
無欲でなければ志は立たず
おだやかでなければ道は遠い
学問は静から才能は学から生まれる
学ぶことで才能は開花する
志がなければ学問の完成は無い

森林総合研究所(の研究者)は、自然科学、社会科学等の多くの学問を極めながら、自然を探求し、謎を解き、物を創るという研究活動を展開しています。今、我々に必要なのは、孔明が最後に云う「志」であり、言い換えれば「夢と希望」であり「使命」であると言えます。「志」や「使命」の達成には、個人の発想や努力が大事であり、グループとしての協調が大事であり、所の後押しや、サポートが大事です。この「志」と「使命」はそれぞれ、個人レベルの研究の方向性として、また中期計画の各レベルでの研究課題やプロジェクト研究のアウトプットとして表現されることは云うに及びません。現在、我々は「所の標語」は持っていませんが「持続可能な森林管理」と「森林資源の持続的利用」を促進する役割を担っています。100周年には研究所としての「志」を確認し、次の100年の大計を考えたいと思いますが、同時に第2期中期計画をこの中に組み込みたく思います。読者、先輩諸氏の英知を得て今後の森林総合研究所の社会的役割を十分に果たすべく所内論議を更に深めたいと考えております。

[\[巻頭言\]](#) [\[解説シリーズ\]](#) [\[おしらせ\]](#)

[\[所報トップページへ\]](#)

